

未来に向けて島を支え、人々が集い、発信の拠点となる、屋久島にふさわしい庁舎

島の人々みんなの暮らしのための場所として、
世界のなかの「屋久島」のための場所として、
屋久島の力を結集し、屋久島ならではの方法でつくる
人々の活動＋自然とともにある建築の佇まい＝屋久島のシンボル

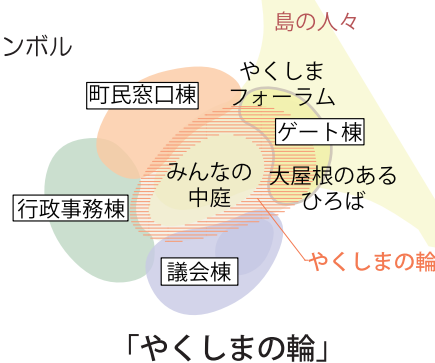


外観イメージ

棟ごとに分節された集落的な景観、屋久島らしい低い軒、背後の山並みと調和した瓦屋根

1 屋久島のひとびとをつなぐ 人の顔の見えるひらかれた庁舎

- ・島の人々みんなの一体感をつくりだす
2つの町・26集落の融和、
来庁者・職員・議員の融和のシンボル
- ・来庁者をやさしく迎え入れる
開放的なアプローチ
- ・全ての機能が「みんなの中庭」
に面するわかりやすい構成
- ・各機能を結び回遊動線
- ・議場の多目的利用を可能とする
中庭に面した配置
- ・町民参加の設計プロセスにより
積極的な町民活動を促進



「やくしまの輪」



2 来庁者にやさしくわかりやすく、 職員が効率よく機能的に働ける庁舎

【快適なサービス空間】

- ・ワンストップ窓口によるわかりやすさ
- ・木のぬくもりを感じられるインテリア
- ・明るい中庭と連続した居心地の良さ
- ・座っても立っても書ける記入台
- ・キッズコーナー・授乳室の設置
- ・ユニバーサルデザイン
- ・相談室の配置などプライバシーの確保と情報管理の徹底

平日の目次



日常利用

休日等



【機能的な執務空間】

- ・来庁者との程よい距離感・視線制御
- ・将来の間取り・家具配置の変更に
対応しやすいワンルームの空間
- ・会議室等の多目的化による利用率向上
- ・ハイオマスを活用した効率よい空調
- ・ハイサイドライトによる自然採光
- ・高度情報化対応
- ・非常時の防災拠点としてのしつらえ

災害時



—外部支援組織滞在所

—物資受入れ等

—炊き出しスペース

—災害対策本部

—防災広場

区画により
独立使用が可能



空間構成のイメージ

4 屋久島の厳しい自然を和らげ、豊かな自然と親しむ庁舎

【厳しい自然を和らげる】

- ・既存の防風林の保全
- ・冬の北西風から玄関と中庭を守る配置
- ・平屋主体の構成と低く深い軒
- ・谷のないシンプルな切妻屋根の組合せ
- ・雨に濡れずに建物にすぐ入れる配置計画
- ・耐久性の高い瓦屋根・縦板張りの外壁
- ・水はけの良い中庭・駐車場の舗装

【豊かな自然と親しむ】

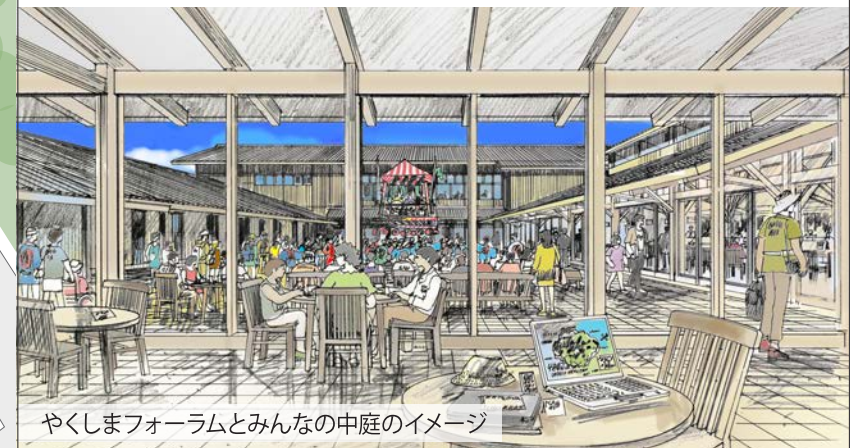
- ・愛子岳の山並みと調和した佇まい
- ・通風、採光、室内の外との近さの確保
- ・どこにいても外が感じられる明るい建物
- ・半外部空間（さしかけ）による内外の連続性
- ・屋久島になじむヒューマンスケールで接地性の高い空間
- ・自生の植物による緑陰の創出



町民窓口棟のイメージ

3 町民活動が屋久島のシンボルとなる庁舎

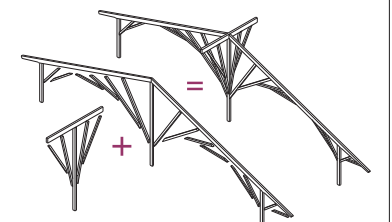
- ・県道から人々の活動が見え、参加したくなる空間構成
- ・駐車場・バス停からの来庁者を迎える「大屋根のあるひろば」
→庁舎の正面玄関であり、雨を気にせず朝市・直売・イベント等を実施
- ・町民活動のよりどころとなる「やくしまフォーラム」
→島と26集落の情報発信、各集落の「語り部」さんの紹介等
→コミュニティカフェなど、人が集まりたくなる仕組み・空間づくり



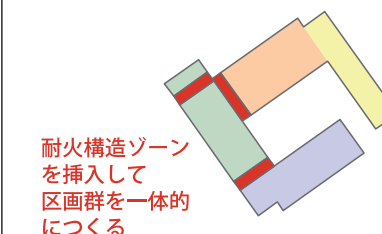
やくしまフォーラムとみんなの中庭のイメージ

5 地杉・黒芯を最大限活用し 屋久島から発信する新しい軸組工法

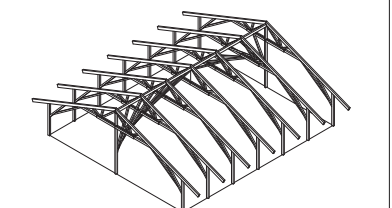
- 地杉、特に黒芯の特性を踏まえた構造材・仕上材への積極的な活用
- 地杉を島内外の木造住宅・木造建築に持続的に活用するしくみづくり
- 地杉の小径材とシンプルな仕口加工でつくる普遍的で効率の良い「屋久島トラス」の提案
- 遮音に優れた木造2階床工法の採用
- 耐火構造ゾーンによる1,000㎡区画で木造らしい内・外観を実現



【町民窓口棟の架構イメージ】
地杉の小径材の組合せでつくる
森のような大空間



耐火構造ゾーン
を挿入して
区画群を一体的
につくる



【議会棟の架構イメージ】
求心性のある無柱空間